

伝統工芸で笑顔の花咲く市川市へ

平田小学校5年 立花 美織

急いで家に帰り、アルバムで七五三のときの写真を確認した。イチヨウが色づく葛飾八幡宮、むつちりとした頬で恥ずかしそうに笑う三歳の私の頭には、赤色の可愛い「つまみかんざし」が付いていた。千葉県の伝統工芸品、江戸つまみかんざしを知ったのは、「学期の授業」だった。市川市の有名なものを各グループで調べ、発表する授業で、友達のグループが写真付きで「つまみ細工」を発表していて、色とりどりで可愛いなと思った。そしてある日、なんと「広報いなかわ」を眺めていたら、夏休みにつまみ細工体験会が開催されていることを知り、参加することにした。当日教えてくれたのは、伝統工芸士である穂積裕子さん。丸くくつらとした「丸つまみ」の花びらを五、六枚を貼り合わせた花を飾ったフォトフレームを作った。ピンセットで一枚一枚花びらに貼って花の形にしていく作業が貼るのが細かくて大変だった。でも気づいたら無言で、夢中になっていた。裕子さんの父である穂積美さんは現在八十八歳。一九五一年に集団就職で上京し、親せきの紹介でつまみかんざしの修行を始めた。当時はまだ女性たちが着物を着用している時代だったため、つまみかんざしは日用品として使われていた。裕子さんは、父である美さんの姿を子ども頃から見ていて、はじめは「伝統工芸品やその技術を守っていくなくてはならない」という想いだっただろう。でも今は「七五三や成人式などの晴れの日に、彩りを添えたい」という気持ちで春は大人、夏は子ども向けに体験教室を開催し、多くの人に知って興味を持ってもらえたらと語っていた。そしてその横には、体験会に参加している小さな子どもたちの作業を優しく手伝ってくれるお姉さんの姿が。裕子さんの娘のあゆさん。「この子が継いでくれるかわからないですが今はお手伝いだけね」と裕子さん。伝統を守ることは、誰かの笑顔を守ることに繋がっていた。私たちができることは、まずそれを知り、自分で体験したり、自分の言葉で感じたことを伝える、そして使っていくことなのだと思う。十年後、私は二十歳になる。成人式の形は変わっているかもしれない。服装も和装だけでなく、もっと自由に個性的になっていくかもしれないと思う。でも私は着物を着て、つまみかんざしを頭に飾り、きつと七五三のときと変わらぬ笑顔で笑っているだろう。伝統工芸だから守らなければならない、それはもちろん大事だけれど、良いものを当たり前のよう残していくことの方が大事だと思う。十年後も古き良きものを身に付け、笑顔がふられる市川市であってほしいと思う。

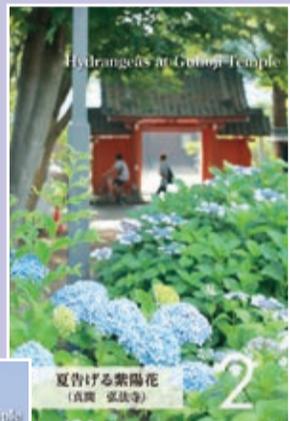
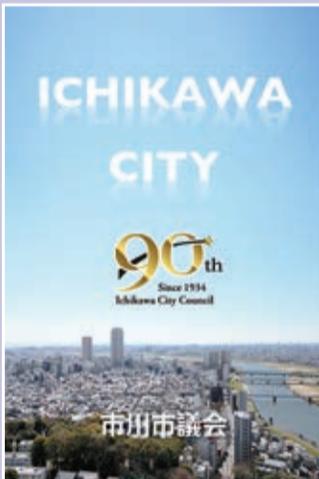
いいことづくしの歴史のまち市川

南行徳小学校4年 千葉 詩乃

私の住んでいる地域は、「みこしのまち行徳」と言われています。私の家の裏の日枝神社にも、おみこしがかざられていて、お祭りの時に大人の人がかかっています。調べてみたら、行徳は江戸時代に「行徳千軒寺百軒」と言われるくらいお寺や神社が多かったために、大工さんなどが集まりおみこし作りが盛んになった事が分かりました。家の近くを歩いてみると、源心寺や善寺があり、行徳古道案内、常夜灯など、歴史的な物も見つけられます。日枝神社は毎朝、おそじをしてくれる人がいるのでいつも整っています。お参りをすると気持ちがいいです。すっきりしますが、お参りが静かですが、お正月や七五三の時には人がたくさん来てにぎやかになります。地域の人の大切な場所になっていると感じます。夏休みに、お祭りに行った時には、風陣だいの人達の和だいをみて、感動しました。市川市内には、古くから大切にされてきた伝統や文化が残っています。それが市川市の良さだと思います。百年後にも大切に残されているといいなと考えました。今、私は、地域に残っている古い物をあまりよく知りません。百年後には子どもも大人も、興味をもって実際にやってみたり、伝えたりできる人がたくさんいる町にしたいです。自分の地域に興味をもって知ると市川市が好きになると思うので百年後は、市川市が大好きな人がいふ、みんなが住みたい町にしたいです。そのためにしたいと思うことが、三つあります。一つ目は小学生や中学生が地域のことを知る機会を作ることです。学校に来て神社やおみこしのみ力を伝える活動があるともっと知りたいと思うきっかけになります。もし音楽の時間に風陣だいの和だいの体験があったらとても興味をもつと思います。子ども達に知ってもらうことで未来につなげていきたいと思います。二つ目に町の良さが伝わる食べ物を作りたいです。たとえばおみこしせんべいや常夜灯だんごがあったらいいと思います。おせんべいはおみこしやお寺の絵がかいてあり、おだんごは前が常夜灯の絵で後ろは常夜灯と字で書いてあります。このような食べ物アイデアを市内の人に集めたら楽しいと思います。自分達で作った食べ物があるのもっと町が好きになるし、古い物を大切に気持ちは育つと思います。三つ目に市川歴史スタンプラリーを作りたいです。市川市の歴史ある場所に行ったら、キューアールコードなどをよみとってスタンプがおせるようにしたいです。全部まわったらい品がもらえます。まわる場所やけい品のシールやスタンプのデザインもみんなにほしゅうして作りたいです。このように楽しんだり、さんかしたりして伝統や文化を伝える町になってほしいです。

日めくりカレンダーの製作・配布

市議会90周年を記念し、市内各所の風景を収めた日めくりカレンダーを製作しました。市川市を学ぶ機会として活用してもらうため、市内の小学校、中学校、保育園、幼稚園等へ配布しました。



市川市の未来に向けて

市川市では、昭和9年12月に初めての市議会が招集され、令和6年は90周年に当たります。そこで、市議会ではこれを記念し、市の魅力を広く知ってもらうために「日めくりカレンダー」を製作し、市内の小中学校等へ配布しました。また、「開かれた議会」の実現に向け、議場コンサートと作文コンクールを開催し、市民の皆様が気軽に議場に足を運び、議会をより身近に感じられる機会を作りました。

市議会は、未来を担う子どもたちが夢と希望を持てるまちの実現に向け、市民の皆様と手を携え、次の100周年、そしてその先へと歩みを進めてまいります。

各イベントのチラシ



議場コンサート

作文コンクール(左:小学生向け、右:中学生向け)